

協議会の流れ

資料 8

課題・対策を具体化

学校のあり方を具体化

意見を聴く会①結果
(西小・中央小再編)

検討の進め方と評価軸の検討

第1回

6月30日

意見を聴く会②結果
(東部・西部地域/市街地
域)

現状と課題の共有①
(重要課題1～3への対応方策)

第2回

7月末

意見を聴く会③結果
(まちづくり住民懇談会)
アンケート結果

現状と課題の共有②
(重要課題4～6への対応方策)

第3回

9月末

望ましい規模・配置
の考え方、
今後の課題
スケジュール感

中長期的な学校のあり方
(配置・規模・制度など)の検討①

第4回

10月末

中長期的な学校のあり方
(配置・規模・制度など)の検討②

第5回

11月末

複数の選択肢(現状維持・改善・統合等)
のメリット・デメリットの比較

第6回

1月末

絞り込み

意見を踏まえた将来像の検討
基本計画(案)の検討

第7回

3月末

パブリックコメント 4月～

重要課題への対応方策の検討 (第2回の振り返りと第3回のテーマ)

意見交換の進め方 以下の6テーマについて、第2回では1～3、第3回では4～6について、意見交換で具体的な対応方針を検討してまいります。

第2回の意見交換テーマ

1 多様な主体の
意見把握・反映

2 望ましい学校規模と教育環境

3 通学環境の確保

第3回の意見交換テーマ

4 財政・施設・将来人口を踏まえた実現可能性

5 地域との関係・郊外校の位置づけ

6 子どもの心理面・学校生活への配慮

①第2回の振り返り（課題1～3）

課題1 多様な主体の意見把握・反映

保護者・子ども・教職員・地域住民などの意見を、どの段階でどう反映し、納得感のあるプロセスを築くか。

情報発信・広報の充実

- ・ HP・SNS・LINE・メール・広報誌でこまめに情報発信する
- ・ メリット・デメリットを細かく発信・受信する
- ・ 中間報告会や定期的な懇談会で進捗を知らせる
- ・ 行政が直接地域に足を運び、双方向で意見を受信する
- ・ すぐーるや封書も活用し、意見を聴く会を定期的に継続する

事前の説明と信頼づくり

- ・ 事前の理解不足や不信感を払拭するための説明が必要
- ・ 統合が決まったら学校の交流を積極的に行う
- ・ 西小を統合のモデルケースにしてはどうか
- ・ 10年後に向けて段階的に考える
- ・ 決定過程の中立性を保ち（進行役と案作成者を分ける）、当事者が納得して決められるようにする
- ・ 委員それぞれの立ち位置や考えを明確にした上で議論を進める

多様な意見把握の場・対象

- ・ アンケートは保育所・幼稚園の保護者、PTA、地域・自治会単位でも取る
- ・ 地域別・各地区でワークショップ形式の話し合いを行う
- ・ カフェ風のざっくばらんな場やオープンスクールで生徒・保護者と一緒に考える
- ・ 委員構成を見直し、公募で子育て世代の参画を増やす
- ・ 未就学児のいる家庭にも文書で呼びかけ、家庭で話し合う機会を
- ・ 在学中・子育て後・将来関わる層など立場ごとに聞く

子どもの意見の把握

- ・ Chromebook・パソコンで選択式にし、答えやすくする
- ・ イメージができそうなアンケート調査を実施する
- ・ 子ども同士のワークショップ・代表者会議・子ども会議・生徒会サミットで拾い、学習の機会とする

<今後の方針>

→HP・公式LINEでの情報発信、気軽な意見交換の場づくり

→子どもの意見把握として、子ども会議、アンケート調査の実施

①第2回の振り返り（課題1～3）

課題2 望ましい学校規模と教育環境

少子化が増々進む中で、一定規模の集団による多様な学びと小規模校のきめ細かな教育を踏まえ、目指す学校規模・学級規模をどう考えるか。

学級数・クラス替え

- ・競争や切磋琢磨のため2クラスは必要／複数学級（2～3クラス）が望ましい
- ・クラス替えができた方がよい
- ・1学年2～4クラス、20～30人と幅を持たせれば将来推計でも複数学級を維持できる

1クラスの人数

- ・20～35人がよい（20名×2、15名×2、20～25人前後など幅広い意見）
- ・現行の35人学級基準は多いとの声
- ・30～35人がよい

学校規模の考え方

- ・大規模校と小規模校のいいところ取りをしたい
- ・小規模校の良さや小規模特認校も含めて柔軟に考える
- ・小中一貫・小中高（大）一貫で市外流出を防ぐ
- ・規模やクラス数以上に、教員の質・教育内容を重視すべき
- ・義務教育学校推進時の初期・運営費用を、現状推移の場合と比較して示す

網走らしい教育・環境

- ・農業・漁業など地域資源を活かした学校づくり／農大を活かした一貫教育
- ・「網走らしい学校像」を皆で考える、未来に向けた授業
- ・現場の教員の声を聞く／特別支援の充実／街中と地方は分けて考える
- ・専門教科の教員（教科担任）を確保し、免許外指導を解消する
- ・安定した財源と教職員の充実した人員配置で現場の人手不足を解消する

<今後の方針>

- 再編した学校規模の目安：2～3クラス、20～30人程度を想定（市街地校）
- 小規模特認校の検討、小中高大の連携の検討、地域資源を活かした教育内容

①第2回の振り返り（課題1～3）

課題3 通学環境の確保

通学時間・距離、スクールバス、冬季の安全、送迎負担を踏まえ、安全で負担の少ない通学をどう実現するか。

通学時間はできるだけ短く

- ・ 最大1時間は長い。最大40分、できれば15～30分に収めたい
- ・ 低学年は30～40分が限度。郊外からまっすぐなら40分以内が理想

送迎の選択肢と負担軽減

- ・ 親の送迎とバス利用を選べるようにする
- ・ 送迎への補助（タクシー・ガソリン代等）
- ・ 緊急時に保護者が送迎する場合に備え、児童生徒が待機できる設備を整える
- ・ 吹雪など悪天候・災害予報時はリモート学習に切り替え、出席扱いとする

多様な交通手段・ルート工夫

- ・ 大型バスに加えマイクロバス・ワゴン車（ハイエース等）を活用
- ・ 路線の工夫、JR・路線バス（朝の時間帯）との連携、児童館等の中継点の活用
- ・ 基準距離に満たない子も中継点で乗れるように。トイレへの配慮や乗車中のオーディオブック等の付加価値も
- ・ 放課後・部活動にも対応する帰りの運行便を確保する
- ・ 既存の学校を残し、出前授業などで対応する案も検討できないか

安全対策と実現可能性

- ・ GPS導入、悪天候時はオンライン授業に切り替えるなど安心・安全対策
- ・ バスの台数・運転手を本当に確保できるか、具体的な見立てが欲しい
- ・ 運転手確保や費用、子どもだけの長距離乗車・吹雪への不安、他市町村の事例も知りたい
- ・ 既存交通の運行主体と連携し、冬季は通学路の除雪を優先する
- ・ スクールバスに添乗員を1台1名配置し、市・学校・保護者が連携して安全対策を取る
- ・ 通学の解決が再編の鍵。市としての費用試算を提示してほしい

<今後の方針>

- 通学時間の目安：40分以内で想定
- 交通事業者との協議状況（網走市に情報提供依頼）

②本日の意見交換テーマの詳細（課題4～6）

課題4 財政・施設・将来人口を踏まえた実現可能性

校舎整備、廃校後利用、バス経費、維持管理費、将来の児童生徒数を踏まえ、持続可能な再編案をどう検証するか。

【視点①】子育て支援との連動 → 放課後児童クラブ・児童館・送迎動線を含めた子どもの一日の生活圏として検討する。

【視点②】給食・学校運営体制の持続可能性 → 給食・教職員・事務・維持管理など学校運営全体の持続可能性として検証する。

【意見を聴く会】 現状維持30年・約337億円は実質負担額か（国庫補助・交付税措置後）、統合費用との比較、各案（新築・既存利用・改修）の費用提示

課題5 地域との関係・郊外校の位置づけ

学校が担う地域コミュニティ・防災拠点（給食施設含む）・文化や伝統の継承の役割を踏まえ、学校配置をどう考えるか。

【視点①】閉校後の校舎活用・解体費 → 再編案ごとに廃校後利用・防災拠点化・民間活用・解体費・維持管理費をあわせて示す。閉じる学校への対応も丁寧に行う。

【視点②】地域文化・伝統芸能の継承 → 統合後も地域学習・学校行事・地域団体との連携で各地区の文化や歴史を継承する仕組みを検討する。

【視点③】まちづくり・人口減少対策との整合 → 移住・定住や子育て施策、市全体の将来像と整合させる。

【意見を聴く会】 学校は地域の交流・見守り・防災の拠点、既存校舎の有効活用、子育て世代の流出・地域衰退への不安

課題6 子どもの心理面・学校生活への配慮

統合に伴う不安や不登校への影響を想定し、事前交流・合同学習・ICT活用・相談体制をどう整えるか。

【視点①】途中学年で統合する児童への影響 → 統合年度の学年ごとに影響を整理し、事前交流・クラス編成・相談体制・移行支援を具体化する。

【視点②】不登校児童生徒への影響 → 心理的安全性・別室支援・段階的登校・オンライン活用など個別支援の視点を組み込む。

【意見を聴く会】 環境変化による心のケアを最優先、段階的な事前交流、いじめ・不登校児への対策、「相談」の場

【参考】まちづくり懇談会での意見

課題1 多様な主体の意見把握・反映

1. 検討体制と情報公開

- ・協議会にコンサルが参加する理由、適正配置の発信主体を確認したい
- ・周知期間の確保、非公開の理由、未掲載の会議録の公開を
- ・市：ドーコンは会議運営補助と計画策定支援の受託事業者
- ・市：今後は3週間程度の周知期間を確保。会議録の掲載漏れは反省

2. 進め方・スケジュール

- ・2028年の西小・中央小統合と2035年の将来像が混在し分かりにくい
- ・基本計画策定までが短く、住民意見の反映に十分な時間の確保を
- ・教職員・児童生徒・保護者の声の把握状況と公表予定を示してほしい
- ・市：3校案も2028年統合も決定事項ではなく、第4回以降に具体案を示す

課題2 望ましい学校規模と教育環境

1. 再編規模への意見

- ・市内3校案には反対。現状維持または最低限の再編に
- ・人数を集める前提でなく、少子化時代の新しい学校教育を網走から
- ・市：14校を3校は例が少なく十分な議論が必要
- ・市：学校数は3校に限定せず柔軟に検討する

2. 小規模校・小規模特認校

- ・呼人は小1～中3が親しく過ごせる環境が評価され児童生徒が増加
- ・学びたい子どもがいる限り郊外の小規模校を残してほしい
- ・市：呼人小中は20～30人程度。特認校1校の設置場所は未定
- ・市：少人数は体育や協働学習に制約。一定規模の集団も必要

3. 教員配置・ICT・校舎

- ・子どもを移動させず、音楽・家庭科等の教員が複数校を巡回する案を
- ・タブレット・電子黒板で学校間の交流や学びの機会を
- ・老朽化した校舎を令和の学校として建て直す検討も
- ・市：東小と白鳥台小で学校間交流を実施。新築・改築の別は未定

【参考】まちづくり懇談会での意見

課題3 通学環境の確保

1. 通学負担への不安

- ・市街地に小中一貫校2校の案は通学負担が大きく再検討を
- ・郊外から片道1時間以上、低学年の早朝からの長時間通学に不安
- ・長時間通学が不登校や睡眠不足につながる懸念

2. 通学手段・市の回答

- ・坂が多く広域な網走で運転手不足もあり、現実的な運行体制の確認を
- ・市：バス路線・台数を見直し通学時間1時間以内を目指す
- ・市：通学の足と学校配置は最大の課題。懸念が強ければ再検討

3. 保護者の声の反映

- ・現在の保護者が計画に納得しているかを確認してほしい
- ・通学時間を重視し、意見を十分に反映してほしい
- ・市：市街地への統合で現行体制では1時間超。事業者と意見交換中

課題4 財政・施設・将来人口を踏まえた実現可能性

1. 財政負担と費用の内訳

- ・校舎改修費337億円は国庫補助等で実質負担が減るため内訳の提示を
- ・市：各年度の事業費を積み上げた総事業費。補助には上限単価がある
- ・市：費用資料は適切な時期にホームページで公開を検討

2. 耐震性・改修順位

- ・西小と網走小は健全度指数が同じ40なのに西小を先に検討する理由は
- ・市：両校とも耐震性に基本的な問題はない
- ・市：改修年度が最も早い西小から検討している

3. 公共施設の集約

- ・児童センター・児童館の学校等への集約方針も再編と併せて検討を
- ・人口減少に対応した機能集約と子育て支援の充実の両立を
- ・市：建替え時は面積3割縮小の考え。教育環境も含めて説明する

4. 運営体制の実現可能性

- ・運転手不足の中、無理なく通学できる運行体制を検討しているか
- ・市：郊外では現在も40～50分通学。統合すると1時間超で見直しが必要
- ・市：バス事業者と市の考えについて意見交換している

【参考】まちづくり懇談会での意見

課題5 地域との関係・郊外校の位置づけ

1. 学校と地域の関係

- ・学校はまちづくりの中心。「学校があって地域がある」両面で考える
- ・西コミセンの放課後事業は年間1,000人超が利用する居場所
- ・西小がなくなる場合の大曲新町地区の将来ビジョンを示してほしい
- ・市：学校が地域の核であることに共感。教育と地域を同時並行で議論

2. 防災・地域の合意形成

- ・3校集約で災害時の避難場所が不足しないか不安
- ・老朽化を理由とする統合でも、住民との合意形成を丁寧に
- ・市：避難所機能と学校数は今後の検討課題。防災・児童館も含め協議

3. 人口減少・産業との整合

- ・郊外から1時間通学なら子育て世帯が市街地へ移り、農漁業から子が離れる
- ・3校再編後にさらに1校へ集約する議論になることが心配
- ・教職員や職場の減少が家族を含む人口流出につながる懸念
- ・市：農漁業の就労・継承への影響は重要な意見として協議会にも伝達

課題6 子どもの心理面・学校生活への配慮

1. 教育のあり方と心の安全

- ・不登校や子どもの自殺が深刻化する中、教育のあり方を原点から
- ・小6・中3の区切りや中学入学の節目も大切。一貫校とする理由の説明を
- ・市：9年間の学びで中学へのギャップを軽減。節目の行事は工夫できる

2. 移行期の支援

- ・対象となる子どもの不安を減らすため学校間交流を早急に
- ・小中一貫のメリット・デメリット・行政上の課題を示してほしい
- ・市：交流は早い時期から進める。託児付きの意見を聴く会も開催

③第1班 意見交換のまとめ

まとめ 「納得」を得る情報発信と、意思決定過程への不信・当事者としての参画を求める声が最も大きい。学校規模はクラス替え・競争ができる規模を望み、小中高大一貫や体験学習で質の高い教育を志向。通学はバス時間・ルートと安全確保が焦点。

1. 納得を得る情報発信（課題1）

- ・将来の学校数や税負担をイメージできる具体的な説明を
- ・運営費・職員数などボリュームが分かったと負担も理解しやすい
- ・細かな説明を積み重ねて理解を得ていくしかない

2. 決定過程への不信と参画（課題1）

- ・「いつ・誰が決めたのか」という素朴な反発・不信が生じている
- ・決められたものを示されるより「我々に決めさせて」ほしい
- ・会議の進行役と案の作成者は分け、中立的に進めたい

3. 意見の集め方・委員構成（課題1）

- ・子供には再編を直接問わず「学校に求めること」を聞く
- ・転校する子の気持ち・感受性にも配慮を
- ・学校関係者に偏らず公募や子育て世代の参加を増やす

4. 学校規模とクラス編成（課題2）

- ・クラス替えや競争ができる規模を（勝ち負けの経験も必要）
- ・目安は20～30人×2クラス程度
- ・少人数のよさも踏まえ一学年＋αの編成を

5. 網走らしい質の高い教育（課題2）

- ・小中高大をつなぐ一貫教育で学びの質を高める
- ・自然・農業・漁業を生かした体験学習、伝統文化も継承
- ・網走でも「都会と変わらない教育と機会」を

6. 通学環境の確保（課題3）

- ・バスは30～40分が望ましい（私立の目安は1時間以内）
- ・遠い子を優先し寄り道しないルート、スクールバス増車を
- ・安全確保はドアtoドア・防犯灯、送迎やタクシーも

③第2班 意見交換のまとめ

まとめ 意見の集め方は園・地域・施設単位できめ細かく、情報開示とフォローが鍵に。学校規模は複数学級を望み、義務教育学校や網走らしい体験学習で質を確保。通学は距離より時間で捉え、中継点や冬場の配慮まで具体的な提案が出た。

1. 意見の集め方（課題1）

- ・ 入学前(保育所・幼稚園)の保護者にもアンケートを
- ・ 市民・自治会など地域別のアンケートを
- ・ 子供はA/B選択式など答えやすい形で

2. 進め方・情報共有（課題1）

- ・ 園・地域・施設単位で聞くと本心を掴みやすい
- ・ 地域別ワークショップ・定期懇談会で進捗共有を
- ・ 情報開示し、解決できなくてもフォローを

3. 学校規模・クラス編成（課題2）

- ・ 複数学級（2～3クラス）が望ましい
- ・ 1クラス20～25人、多くて35人が目安
- ・ 学校数は小規模特認校2+大きい学校2程度

4. 教育環境・網走らしさ（課題2）

- ・ 施設一体型の義務教育学校で教員数を確保
- ・ 小中一貫は制服や修了式の工夫で節目に対応
- ・ 農漁業・地産地消など網走らしい学びを具体的に

5. 通学時間・ルート（課題3）

- ・ バスは40分まで（冬は1時間が限界）
- ・ 路線整理やJRの協力・活用を
- ・ 中継点で運転手や親の負担を軽減

6. 通学の配慮・付加価値（課題3）

- ・ 距離でなく時間で、地域で基準を話し合う
- ・ 雪・吹雪時はオンライン授業、学校の位置も重要
- ・ 車内にWiFiや読み聞かせなど付加価値を

③第3班 意見交換のまとめ

まとめ 納得を得るにはこまめな情報発信と学校・地域ごとの中間報告会が重要。子供の意見はChromebookやワークショップで丁寧に。学校規模はクラス替えのできる複数学級を望む一方、適正人数は現場の声を求める。街中と郊外を分けて考え、通学は時間短縮・安全確保と、方法を選べる仕組みやバス体制の確保が焦点。

1. 情報発信・中間報告（課題1）

- ・スクールや広報に資料を随時載せ関心を高める
- ・学校・地域ごとに中間報告会を開催
- ・HP・LINEなどのSNSでこまめに発信

2. 子供の意見の集め方（課題1）

- ・Chromebookでアンケート、学年に応じた説明を
- ・児童会・生徒会などワークショップで話し合う
- ・各校代表が集まり交流、委員が補助役に

3. 学校規模・クラス編成（課題2）

- ・クラス替えのできる最低2クラスを
- ・35人は多い、20～25人が目安
- ・適正な人数は現場の先生に聞きたい

4. 教育環境・網走らしさ（課題2）

- ・特別支援学級の充実・支援員の増員を
- ・街中と郊外は分けて考える必要
- ・農業・漁業など網走らしい学びを全体で

5. 通学時間・安全（課題3）

- ・バスは30～40分が目安、低学年に1時間は厳しい
- ・バスにGPSを付け位置を把握、保護者も安心
- ・悪天候時はオンライン授業に切り替え

6. 通学方法・実現性（課題3）

- ・送迎・バス・路線バスなど方法を選べる
- ・旧校舎発着で距離要件外の子も乗れる工夫
- ・運転手・バス台数の確保が前提

③第4班 意見交換のまとめ

まとめ 行政が直接足を運び双方向で意見を聞く場づくり、現場の声をもとにした学校規模・適正人数、通学時間の短縮や安全確保・送迎補助や公共交通の充実といった、実践的で具体的な提案が数多く出された。

1. 情報の受信と対話の場（課題1）

- ・教委・市が直接聞きに来る場を
- ・発信だけでなく受信・双方向で
- ・保護者ワークショップを常設に

2. 声の把握・意向の確認（課題1）

- ・年代・立場ごとに分けて聞く
- ・子供はタブレットでアンケート
- ・現状の学校規模への満足度を把握

3. 学校規模・クラス編成（課題2）

- ・小規模・大規模、一概に言えない
- ・理想は2～3クラス、30～35人
- ・クラス数は多め、35人で線引き

4. 現場の声・教育環境（課題2）

- ・適正人数は現場の先生に聞く
- ・特別支援学級の充実を
- ・行事は人数が多い方が交流できる

5. 通学時間・車内の安全（課題3）

- ・乗車時間に幅、低学年は厳しい
- ・バスに先生が同乗しておらず不安
- ・運転手・バスの確保が課題

6. 送迎・交通手段の工夫（課題3）

- ・GPS・AIで位置把握しアプリ連動
- ・保護者送迎への金銭補助を
- ・無理なら公共交通の充実・除雪

③第5班 意見交換のまとめ

まとめ アンケートの前に費用を含む正確で平等な情報の提示を求める声が強く、意見把握はカフェ風の場合やオープンスクール、子供会議など気軽に参加できる工夫を。学校規模は人数より教育の質、通学はバス確保の見立てが不可欠との意見が中心に。

1. 情報の受発信と透明性（課題1）

- ・ メリット・デメリットと費用を明示
- ・ 正確で平等な情報を出してから
- ・ 段階的に決め、10年後に再検討

2. 意見の集め方・子供の声（課題1）

- ・ カフェ風の気軽に話せる場を
- ・ オープンスクールで保護者も参加
- ・ 子供会議など子供の生の声を

3. 学校規模・学級人数（課題2）

- ・ 人数より教員の質・教育内容
- ・ 1クラスは少人数が望ましい
- ・ 大規模・小規模のいいところ取り

4. 教育環境・網走らしさ（課題2）

- ・ 教科担任（免許外指導）の確保
- ・ 中高一貫で市外流出を防ぐ
- ・ 網走らしい学び・特別支援充実

5. バス確保の見立て（課題3）

- ・ 運転手・バス台数の確保が不安
- ・ 費用増大の試算が示されていない
- ・ 見立てがないと先に進めない

6. 通学時間・運行の工夫（課題3）

- ・ 乗車時間は30～40分が限界
- ・ 放課後・部活便の確保が課題
- ・ 特急バスなど既存交通と連携

追加意見 意見シートのまとめ

まとめ 意見の把握では未就学児家庭の声や委員の立場の明確化を求める意見が、学校規模では2クラス以上の維持と財源・人員配置の充実を望む声が出た。通学は時間の負担軽減と添乗員配置・リモート対応、運転手確保と費用試算の提示が焦点。

1. 意見の把握と発信（課題1）

- ・乳幼児・幼児のいる家庭がどう考えるかを特に知りたい
- ・各家庭で話し合う場を持てるよう文書で協力を呼びかけ
- ・意見を聴く会の定期継続、すぐ一着や封書で情報発信

2. 立場の違いと進め方（課題1）

- ・在学中・子育て後・将来関わる層で意見は変わってくる
- ・委員の立ち位置や考えを明確にした上でグループ分けを
- ・意見を聞きすぎると前に進まなくなる懸念もある

3. 学級数・教育環境（課題2）

- ・トラブル防止のため2クラス以上はあってほしい
- ・1学年2～4クラス、1クラス20～30人と柔軟に設定を
- ・安定した財源と教職員の充実した人員配置が最優先

4. 将来推計と受け止め（課題2）

- ・2035年推計でも1学年70人程度で複数学級は維持できる
- ・子どもが減少する今、なるようになるしかない
- ・初期・運営費用を現状推移の場合と比較して示してほしい

5. 通学時間・安全対策（課題3）

- ・1時間以上は負担。既存校を残し出前授業での対応は可能か
- ・吹雪など悪天時は登校判断をせずリモート学習で出席扱いに
- ・スクールバスに添乗員を1台1名配置し安全対策を

6. 運転手・費用の見通し（課題3）

- ・運転手の人手不足で民間委託も容易ではない
- ・二種免許を持たない運転手や高齢化による事故の懸念
- ・通学が解決すれば再編問題の6割が解決。市の試算提示を